

第一章活用事例

小学校三・四年生版「心しなやかに
「生きているって・・・」

p.20
～
p.21

中心資料

「生きているしるし」(小学校読み物資料とその利用
平成五年三月 文部省)

【主題名】 生命の尊厳

第三学年及び第四学年 3-1(1)

【ねらい】

「生命の尊厳を感じ取り、生命あるものを大切にすることから生命の尊厳を知り、生命あるものを大切にしようとする心情を育てる。」

《ねらいとする道徳的価値》について《三・四年生の時期の児童は、死を身近に経験することほまだあまりありませんが、現実性をもって死を理解できるようになってきています。毎日当たり前のように繰り返されていますが、実は、日常生活は家族や自分自身の生命が活かされているということ、そしてそれら一つ一つがかけがえのない大切な存在であるということを感じ取らせることが大切です。》



「生きている」と感じるのは、どのような時でしょう。」

導入

○事前指導で、自分が生まれた時の話や名前の由来などを話題に出しておきましょう。「心しなやかに」p.110「⑩いのちをかがやかせよう」に記入させておいて活用することもできます。

○教師が「生きているしるし」を読み聞かせましょう。



「病院で妹に初めて会った時、ちえ子はどのような気持ちになったでしょうか。」

○どんなにかわいいかと思っていた妹が、しわくちゃんな顔で泣いてばかりいることに、驚いたりがっかりしたりした気持ちに気付かせましょう。



「お父さんから、自分の生まれた時の話を聞いたちえ子は、何を考えたでしょうか。」

○自分が生まれた時は、命が危険なほど大変だったことを知り、元気になるために支えてくれたお医者さんや、心配してくれた家族の存在を改めて実感した主人公の気持ちを想像させましょう。



中心発問

「お父さんに『赤ちゃんが泣くのは、生きているしるし』と言われたあと、妹を見たちえ子の気持ちは、どのように変わったでしょうか。」

展開

○大きな声で泣くことも、生命が強く生きようと輝いている瞬間であることに気付かせましょう。

○ちえ子が、自分自身が大切に育てられてきたことと同じように、自分も妹を大切にしていこうという気持ちになっていったことを捉えさせます。

《評価》 生命の輝きについて話し合い、自他の生命を大切にしていることとする気持ちをもつことができたか。

○これまでの自分の経験を、命の大切さという視点から見つめ直させましょう。

○教師自身が、生命のすばらしさを体験したときの話を、子供たちに語りましょう。

○「心しなやかに」p.20～p.21「生きているって・・・」を読み、授業のまとめにしましょう。

終末

板書例

生きているしるし

「びょういんで、初めて妹に会ったとき」

しわくちゃん
で泣く赤ちゃん
の挿絵

- しわくちゃんだ。
- どうして泣いてばかりいるのだろう。
- こんにちは。わたしがお姉ちゃんだよ。
- はやくだっこしてあげたい。

「自分が生まれた時の話を聞いたちえ子は・・・」

保育器に入るちえ子の挿絵

「赤ちゃんが泣くのは生きているしるし」と言われた時

- がんばって生きているのだな。
- さすがは、わたしの妹だ。
- じょうぶに生まれてよかったね。
- 元気に育ってね。
- たくさん遊んであげるね。

「生きているって・・・」の詩

《評価》

生命の尊厳に気づき、生命あるものを大切にしようとする心情を育てることができたか。